

令和5年度第1回

豊田市社会福祉審議会 高齢者専門分科会 議事録

日 時：令和5年7月19日（水）

午後2時～午後4時

場 所：市役所南庁舎5階 南52会議室

Web併用会議

■ 出席者

（豊田市社会福祉審議会高齢者専門分科会委員）

※敬称略・五十音順

所属機関・団体名	氏 名	出欠
豊田市社会福祉協議会常務理事	安藤 広重	○
豊田市高齢者クラブ連合会会長	稲垣 令一	○
市民公募	岩佐 伸雄	○
豊田加茂医師会理事	榎本 康宏	○
豊田市民生委員児童委員協議会高齢者福祉部会長	梶 鐘治	○
豊田市介護サービス機関連絡協議会監事	傍嶋 博志	○
豊田加茂歯科医師会会長	田代 和久	○
豊田市ボランティア連絡協議会書記	田中 すい子	○
日本福祉大学中央福祉専門学校校長	長岩 嘉文	○
中京大学現代社会学部准教授	中田 雅美	○
豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会会長	藤江 貴紀	○
豊田市ファミリー・サービス・クラブ顧問	三崎 祐子	○
豊田加茂薬剤師会副会長	山田 雄三	○

■ 豊田市社会福祉審議会 高齢者専門分科会 次第

1 開 会

2 議 事

(1) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に関すること

【議題1】第8期計画の進捗状況について（報告事項）

【議題2】第9期計画事業（案）について（協議事項）

【議題3】人口推計、認定者推計について（報告事項）

(2) 地域包括支援センター運営協議会に関すること

【議題1】地域包括支援センターが介護予防ケアマネジメント及び指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所について（承認事項）

【議題2】令和4年度地域包括支援センター事業報告及び収支決算について（承認事項）

【議題3】令和4年度地域包括支援センター事業評価結果の概要について（承認事項）

【議題4】令和5年度地域包括支援センター事業計画及び収支予算について（承認事項）

3 連絡事項

(1) 今後の計策策定スケジュールについて

〔 議 事 内 容 〕

(1) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に関すること

【議題1】第8期計画の進捗状況について（報告事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 重点施策・施策の進捗状況の報告

（会長）

かなりの事業項目について説明いただいた。モデル事業については「廃止」となるが、引き続き何らかの形で継続したり、そのノウハウを活かしていく。「見直し」は、方法論を工夫する、もしくは、フェードアウトもあるとのことである。中でも、見守り施策は再検討というトーンである。ご意見・ご質問などはいかがか。

（委員）

見守りについて、「見直し」とあるが、どういう点が問題で、どういう方法で改善していくのか、方向性があれば教えていただきたい。

（事務局）

単身世帯や高齢者夫婦世帯が増加するなど、見守りの対象者が増えていく中、支援者が比例して増えていくわけではない。また、これまでと同じような見守りの仕方をしていると、支援の必要な人が施策の対象から外れてしまう。支援する人が不足することも考えると、デジタルの力を借りながら行っていければと考えている。また、利用者が少ない事業もあり、再構築していきたい。

（委員）

使い勝手の悪さが問題でやり直すということか。

（事務局）

限られた予算の中で、どの程度の見守りをどのような方法で行っていくかを考えていきたい。

(会長)

直接訪問のみの事業では、対象者の増加により、対応しきれなくなることを先読みしているということですね。

(委員)

民間の事業と重複するところについては、民間に委託するということが。

(事務局)

同じ事業をする中で、どのようにしたらお互い良いのか、総合的に考えていきたい。その中で、委託をするという選択肢を取るかもしれないし、別の方法があるかもしれないし、民間に完全に任せて市は手を引くということも考えられる。

(会長)

効果や効率を意識してやっていくということですね。

(委員)

ひとり暮らしの高齢者については、月に1回程度、民生委員が訪問している。中には、訪問を断られ、半年や4か月ぶりとなる人もいる。コロナで訪問ができない状態が続いていたが、5類に変わり訪問できるようになった。ただし、民生委員が思うように活動できないという現実がある。行って嫌な顔をされると、次はなかなか行きづらい。それぞれ工夫しながら頑張っているが、記念品（敬老金）の贈呈は、民生委員が訪問しやすくなる手立てとなる。

(会長)

認知症関連の施策について「見直し」が入っているが、いかがだろうか。

(委員)

見守りの方法は、訪問のみか、もしくは電話に出ない人だけ訪問しているのか。電話で大丈夫な人もいるのではないか。

(委員)

コロナの時は電話で行っていたが、訪問が必要な人には事前連絡をして訪問をしていた。5類になり、訪問を再開している。

(会長)

I C Tツールが開発されてきており、それを活用できるのではないかと思う。

概要説明（介護保険課）

- ・ 介護保険事業の実績一覧の説明

(会長)

現計画は、コロナの影響が短期的に終わるか終わらないか分からないまま計画を立てている面がある。現状はこの資料の通りである。

【議題2】第9期計画事業（案）について（協議事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 新規事業（案）、事業（案）について説明

(会長)

新規事業は、認知症関連、身寄りのない・判断能力のない高齢者への支援、介護人材の確保などがみられる。意見・質問はいかがか。

(委員)

身寄りのない方は、徘徊高齢者の登録ができないので、誰もが使える制度にしていただきたい。登録できないと、民間の事業所が対応することになり、負担がかかっている。

働きやすい職場づくりについては、介護サービス機関連絡協議会と市がタッグを組んで強化していきたい。

(委員)

施設において、介護人材の確保は、常に抱えている課題である。引き続き、就職相談会を開催していただいているが、ここのところ、外国人の人材の登用が多くなっている。バンドン市以外の外国人もフォローしていただき、業界としてはありがたい。

(会長)

人材確保は年々厳しくなっている。保険者だけでできることは限られるので、知恵を集

めて取り組んでいかねばならない。

(委員)

在宅系のサービスが伸びる一方で、ヘルパーの確保が難しい。このミスマッチをどうするか。また、認知症、身寄りのない方への介護サービスは随分と充実してきたと思うが、権利擁護は大幅にニーズが高まっている。社会福祉協議会が対応できる量が実績になっている状況である。従来の延長でなくレベルアップした見方をすべきである。

ひとり暮らし高齢者は登録されているが、高齢者夫婦世帯でかなり厳しい状況の世帯がある。

(会長)

最近、認知症基本法が成立したが、計画の内容に影響しているのか。

(事務局)

認知症基本法成立を踏まえた今後の動きには、注意して施策を考えていきたい。ただし、豊田市ではこれまでも認知症施策推進大綱を踏まえた取組を既に進めており、市の方向性として大きく変化することはないのではとも思う。

(委員)

認知症を早期に見つける健康診断があると良いと思う。

敬老金の贈呈については、どのように見直すのか。

(事務局)

敬老金は80歳から贈呈しているが、平均寿命が90歳弱になってきており、敬老金でなく他の施策を充実することも含めて検討したい。「廃止」という選択肢を否定することなく検討していきたい。

(委員)

食の自立支援については、配食の方が孤独死を発見したケースもある。今後、さらに後期高齢者が増加する中で、どのように見直すのか。

(事務局)

配食は、食事の提供と見守りという2つの機能を有している。見守りは必ずしも対面でなくてもよい場合があるため、2つを切り離して考えたい。なお、本事業は利用者が多い

ことに留意したい。

(委員)

家族が運転するので、ひとり暮らし高齢者等移動費助成のタクシー券が出ない人がいる。家族が不在の時などもあり、助成対象を広げることができたらよいと思う。

(事務局)

この事業は、助成対象を世帯でみているが、個人に着目するなど、支給要件の見直しを考えている。また、要介護認定を要件としているが、対象とする要介護度等も検討したい。使いやすさも含めて、よく検討していきたい。

(委員)

身寄りのない人について、病院に丸投げされる場合があり、対応に負担がかかることがある。その辺りを透明化していただけると現場は対応しやすい。

(委員)

身寄りのない人について、経済面から受診しない人がいる。その辺りのセーフティネットが欲しい感がある。

(委員)

コロナで見合わせたが、私達の地区では、元気アップ事業を再開している。世話役などの人材をもう少し養成していただきたい。また、10年以上している人に再教育をするのもよいと思う。

(委員)

要介護にならないように健康維持をしてもらいたい、健康管理をしてもらいたいという目的で、高齢者クラブを開いている。移動支援について、足助、旭、稲武地区で考えられているが、山間部だけでなく町の中で移動できない高齢者が多いと聞いている。

一人暮らしだけでなく、隣とのつながりが希薄な高齢者もいて、見守りや訪問活動目的でも、電話や住所を教えていただけない人がいる。そういう人をどういうふうに発見して、支援につなげていくかが課題である。また、役員のなり手がいない中、高齢者は増えるが、それを支える人が少ない。

データを出すことは良いが、現場に出向くと見えてくることがあるので、市の職員の方も現場を実際に見ていただきたい。

災害への備えについて、どこにどんな人がいるのか、なかなか顔と名前がくっついていないと思うが、高齢者クラブでは、誰がどうなっているのか結構分かっていると思う。高齢者クラブとタイアップした共働の動きが弱いように思う。今後、高齢者が増える中で高齢者が動かないと地域が回っていかないだろう。

(会長)

移動に関する問題が、ますます深刻化している。行政データだけでは見えない実態もかなりあるのではないかと。ヒアリングをしながら進めていただきたい。また、個人情報保護により活動しづらいことがあり、その辺りを踏まえていく必要がある。

(委員)

移動支援について、買い物、墓参りなどの要望が結構あるが、私達の会では、保険の関係で車に乗せてお連れすることはできない。墓参りは代わりに行くことも多い。タクシーに乗るまでができない人も多く、手伝いに行くこともある。

コロナで外出しづらく刺激が少なかったが、少しずつ外に出られるようになって、色々な人と触れ合うことが嬉しい、大事だと思ってきているようだ。

認知症になるとかなり不安になるということを聞く。家族でも理解できないことがあり、ピアサポートはとても効果的と考える。

(会長)

移動支援について、個人の手伝いはよいが、組織としての支援は色々な制約があってしづらい。

(委員)

実態を見ている皆様の意見を踏まえて、行政の計画として落とし込んでいけるようになるとさらにいいと思った。

モデル事業を終わった後や、見直しの内容が気になった。認知症カフェは「見直し」としているが、第9期での重点施策にある。

基本目標の日常生活に関する施策について「見直し」が結構あり、委員も不安を口にしていて。どのように見直されるか注視していきたい。

コロナの影響について、ショートステイが少なく、訪問にシフトしているとのことであった。訪問の人材確保が難しく、重点的に拡充してはどうか。それにより地域で住み続けられるようになる。わが国の大命題であるが、どこの人材を拡充していくのかを考えていく必要がある。

(事務局)

訪問系については、体験事業を新規事業としてあげている。施設や通所と違い、訪問はヘルパー1人で行くもので、最初にやってみようという時は壁があるだろうと思われるので、訪問の体験を何らかの形で支援をして、その壁を少なくして人材の確保につなげていきたい。

(委員)

小規模多機能型居宅介護が伸び悩んでいる背景は何だろうか。

(会長)

小規模多機能型居宅介護は居宅介護支援から切り離されるので、なかなか利用者の確保が難しい感がある。

【議題3】人口推計、認定者推計について（報告事項）

概要説明（介護保険課）

- ・ 人口推計、認定者推計の説明

(会長)

豊田市では、2045年までは高齢化率が上がっていく。ただし、市内には高齢化率が頭打ちになる圏域もあるだろう。

(2) 地域包括支援センター運営協議会に関すること

【議題1】地域包括支援センターが介護予防ケアマネジメント及び指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所等の説明

（会長）

本件、地域包括支援センターについて、定期的な報告を受けるものです。

委託先の偏りについては、委託先が僅少、もしくは、本人の希望によるものということである。

では、承認について挙手をお願いしたい。

（承認の確認）

承認されたので、次の議題に移る。

【議題2】令和4年度地域包括支援センター事業報告及び収支決算について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 事業報告、収支決算の説明

（会長）

令和4年度の事業報告である。

（委員）

地域包括支援センターの職員は、昼間は外出しており、自席に座っている時間がほとんどない。コロナが5類になって相談件数が増えており、帰ってきて事務作業となり、残業も多い。人材不足で、なかなか3職種（保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員）が集まらない。

市の規定で余剰のお金は人件費に使ってもよいとあるが、職員が集まらないことが課題である。

（委員）

まず、要件の3職種の確保をする必要がある。多様な相談があり、高齢者クラブ・民生

委員と一緒に地域で活動している。それもあながら予防プランの作成も担当している。

職員を集めることが難しく、短時間の職員も含めての人員配置で、今後、常勤に成長していくことも考えながらである。職種の要件の緩和も含めて検討していただけるとありがたい。特に主任ケアマネジャーは、法人内で育成していくしかないなので、時間とコストがかかる。

(会長)

豊田市において、地域包括支援センターの認知度は高く、民生委員でも、高齢者クラブでも、一般の市民の方でも、相談するときちゃんと対応してくれるという評価がある。

少し戻ってしまうが、ステップアップ講座の受講者の活躍の場はあるか。

(事務局)

登録制度を開始しており、認知症に関する情報を送付したり、イベントなどへの参加者募集など、活動への協力をお願いしている。チームオレンジの構成員要件にもなっている。

(会長)

では、事業報告・収支決算について、ご承認いただける方は挙手をお願いしたい。

(承認の確認)

承認されたので、次の議題に移る。

【議題3】令和4年度地域包括支援センター事業評価結果の概要について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 事業評価結果の説明

(会長)

評価結果は非常に良好で、規定された業務だけでなく、地域の課題を拾ってオリジナルな取組をしているのがよく分かったのではないか。

(委員)

様々な工夫をして取り組んでいて、頭が下がる思いだ。ただ、地域包括支援センターを知らない市民もいるので、引き続き情報発信していただけるとよい。P9の電動カートの取組は、移動支援の対応策の1つとして選択肢が増えていくとよい。

(会長)

では、承認いただける方は、挙手をお願いしたい。

(承認の確認)

承認されたので、次の議題に移る。

【議題4】令和5年度地域包括支援センター事業計画及び収支予算について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 事業計画・収支予算の説明

(会長)

地域包括支援センターの基本業務を踏まえた計画と思う。

承認いただける方は、挙手をお願いしたい。

(承認の確認)

すべての承認事項が承認されたが、全体について、いかがだろうか。

(委員)

地域包括支援センターがケアプランを民間に委託している背景として、センター業務があふれているので、地域のケアマネジャーに何とかお願いしている状況である。センターの職員の業務負担は非常に大きく、人員体制が整わず、プラン作成のボトルネックになるリスクがある。

(事務局)

全国的な課題であり、法改正もあったが、まだ、国から具体的なものが示されていない状況にある。

(会長)

前回の報酬改定の初期加算は、あまり効果はなかったということかもしれない。

(委員)

豊田市には全中学校区に地域包括支援センターがあることがすばらしい。かつ、それぞれのセンターが基本業務に加えて、地域を踏まえた活動をしている。すごく大事な取組で

あるが、人員が不足している。豊田市では網の目が細かい状況にあるので、センター相互での情報共有や、2か所のセンターが合同で実施することも考えられる。

(会長)

議事を終えたので、ここからの進行は事務局にお願いしたい。

3 連絡事項

概要説明（介護保険課）

- ・ 今後の計画策定スケジュールについて説明

(事務局)

以上を持ちまして、令和5年度第1回豊田市社会福祉審議会高齢者専門分科会を終了します。ありがとうございました。

以上